

平成18年 12月4日	農作物病虫害発生予報 12月	山口県病虫害防除所 山口県農業試験場
----------------	---------------------------------	-----------------------

～目次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病虫害】	2
	【その他の病虫害】	5
III	病虫害・農薬情報	
	病虫害メモ — 冬春トマトに発生する立枯性病害 ～トマト根腐萎凋病～	6
	農薬メモ — 農薬の保管中の注意について	6
IV	参考(予報の見方、気象予報、12月のテレホンサービスの内容)	7

I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
イチゴ	灰色かび病	多	多	多
	うどんこ病	平年並	平年並	前年並
	アブラムシ類	やや多	やや多	少
	ハダニ類	多	多	多
	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	多
アブラナ科野菜	コナガ	平年並	平年並	多

作物	担当者
普通作	野崎(病害) 中川浩二(虫害)
果樹	藤村(病害) 殿河内(虫害)
野菜	岡田(病害) 岩本(虫害)
茶	中川浩二(病虫害)

お問い合わせ先	
TEL	(083) 927-4006
FAX	(083) 927-4071

II 予報

【主要病害虫】

イチゴ

1 灰色かび病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は19.0%（平年1.5%）、発病株率は2.2%（平年0.03%）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、12月の気温は平年並か高く、降水量は多い（+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

被害果や被害葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

<防除のポイント>

ア ジカルボキシイミド系薬剤（スミレックス剤、ロブラール剤）は一部で、ポリオキシシン剤は広範囲で耐性菌が出現しているため、使用後は必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は使用を控える。

イ 耐性菌の出現を避けるため、同一薬剤の連用並びに同一系統の薬剤間での輪用は避ける。

2 うどんこ病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発病前または発病初期

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は21.4%（平年29.2%）、発病株率4.8%（平年5.8%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では12月の気温は平年並か高い（±～+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

被害果や被害葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

<防除のポイント>

ア 発病前の予防または、発病初期の防除を徹底する。

イ 発生した場合、発病した葉を除去した後、治療効果のある薬剤を用いて防除を実施する。

ウ 耐性菌の出現を避けるため、同一薬剤の連用並びに同一系統の薬剤間での輪用は避ける。

3 アブラムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率26.2%（平年30.5%）、寄生株率8.5%（平年6.2%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 気象予報では、12月の気温は平年並か高い（±～+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

局所的に発生することが多く、多発後の防除は困難なので、下葉の葉かきをこまめに行う一方、ほ場をよく観察して早期発見に努める。

<防除のポイント>

ア 開花期以降に薬剤散布を行う場合は、訪花昆虫に影響の少ない薬剤を使用する（日本バイオリジカルコントロール協議会HP (<http://www.biocontrol.jp/>)等を参考）。訪花昆虫の巣箱を施設外に出して薬剤散布を行う場合は、薬剤の影響が無くなってから巣箱を施設内に戻すようにする。

イ 発生が局所的である場合は部分散布を行う。また、薬剤は葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。

4 ハダニ類

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は47.6%（平年12.0%）、寄生株率は7.2%（平年2.0%）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、12月の気温は平年並か高い（±～+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

アブラムシ類の<耕種的防除等>を参照する。

<防除のポイント>

- ア ナミハダニ(黄緑型)の発見が肉眼で困難な場合は、拡大鏡などで確認するか、葉裏に白紙を擦り付けて赤や薄緑色のハダニが潰れた痕跡の有無を確認する。
- イ その他については、アブラムシ類の<防除のポイント>を参照する。

5 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	—

(2) 予報の根拠

- ア 11月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は16.7% (平年19.0%)、寄生株率は0.8% (平年1.5%) で平年並みであった(±)。
- イ 気象予報では、12月の日照時間は平年並である(±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

- ア 日光が差して気温が上昇してくると葉や蕾の食害を始めるので、ほ場をよく観察して捕殺する。
- イ 施設栽培では葉の裏や鉄骨パイプ等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけ次第捕殺する。

<防除のポイント>

アブラムシ類の<防除のポイント>ア、ウを参照する。

アブラナ科野菜

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	若齡幼虫時

(2) 予報の根拠

- ア 11月下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率は54.6% (平年31.0%)、10株当たり虫数は0.8頭 (平年2.1頭) で平年並みであった(±)。
- イ 気象予報では、12月の気温は平年並か高く、降水量は多い(±~+)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 平成16年度に行った薬剤抵抗性検定において、有機リン系薬剤、ピレスロイド系薬剤、IGR系薬剤のコナガに対する効果は低い場合があり、BT剤やスピノエース顆粒水和剤、アフーム乳剤では高い効果が得られた。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想 発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年 (%)	平年 (%)	
イチゴ	炭疽病	やや多	やや多	並	7.1	3.5	発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出して処分する。
	萎黄病	やや多	多	多	4.8	1.0	
アブラナ科野菜	ウワバ類	多	多	前年並	64 (キャベツ)	11	日光が差す等、気温が上昇してくる(ハスモンヨトウで9℃以上)と食害を始めるので、ほ場をよく観察する。 収穫までに間があり、発生が確認された場合は防除を実施する。
野菜全般	ハスモンヨトウ	多	多	前年並	64 (キャベツ)	16	
	オオタバコガ	多	多	前年並	64 (キャベツ)	15	
	シロイチモジヨトウ	多	多	前年並	36 (キャベツ)	2	

Ⅲ 病害虫・農薬情報

病害虫メモ

冬春トマトに発生する立枯性病害 ～トマト根腐萎凋病～

トマトの栽培は、施設栽培の普及や優良品種の開発などにより、現在では一年中絶えることなく可能になりました。それに伴い様々な土壌病害も発生しています。トマトの土壌病害には、青枯病という、暑い時期に突発的に株がしおれ、最後には枯死する病害が有名ですが、晩秋から春にかけての寒い時期にも、同じようにしおれ症状を引き起こす怖い病害があります。その病害は、根腐萎凋病(ねぐされいちょうびょう)といい、土壌中に生存するフザリウムというカビの仲間に起因します。この病害の特徴は、はじめに下葉が黄化し、それが少しずつ上位まで広がることで、最終的には「しおれ」、「枯死」に至ります。また、茎の維管束が褐変しますが、その程度は青枯病などと比較して軽く、地上10～20cm程度までしか上がりません。

防除は、抵抗性品種を利用した栽培やクロルピクリンなどを利用した土壌消毒が有効です。抵抗性品種には台木用、自根用があり、いずれも種子の袋やカタログに「J3 抵抗性」や「根腐萎凋病抵抗性」等の記載があります。抵抗性品種を利用することで「根腐萎凋病」は完全に防除することが可能となりますが、他の病害については抵抗性ではありません。抵抗性品種を有効に利用するためには、自分のほ場でどのような病気が発生しているのか調べておく必要があります。(専門研究員 鍛冶原 寛)

農薬メモ

農薬の保管中の注意について

農薬の保管において注意しなければならないことは、農薬は化学物質であることから高温や紫外線で分解が促進されるので、冷暗所に保管する必要があるということです。また、粉剤などの固形剤は吸湿すると分解が進んだり、物理性が悪くなることがあるので、必ず乾燥した場所に保管するようにします。農薬のラベルに表示されている有効年月日は適切な保管状態での有効期限であることに注意してください。農薬は長期間保管しておく分解等による効果の低下等の問題が起こる可能性があるため、計画的に購入してください。さらに、乳剤などでは可燃性の溶剤が配合されており、火気のそばにおくと引火の危険がありますので、絶対に火気は避けなければなりません。このほか、農薬は子供の手の届かない、鍵のかかる所に保管することを危害防止のために必ず守ってください。

長期保管後に使用する際には農薬のラベルの記載事項をよく読んで適用を確かめるようにしてください。(専門研究員 藤村寿祐)

IV 参考

1 予報の見方

(1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

（注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（12月1日福岡管区气象台発表）

予 報	高 しい (%) 多 しい	平年並 (%)	低 しい (%) 少 しい
気 温	40	40	20
降 水 量	40	30	30
日照時間	30	40	30

週ごとの気温傾向

予 報	高 しい (%)	平年並 (%)	低 しい (%)
1 週 目	30	40	30
2 週 目	50	30	20
3～4 週 目	40	40	20

3 12月のテレホンサービスの内容（予定） TEL(083)927-4649

時期	内 容
上旬	12月の発生予報、イチゴ病害虫の防除、果樹類病害虫の冬期防除
下旬	カンキツ類の冬期防除、イチゴ病害虫の防除